

株主のみなさまへ

平成16年度 **中間報告書**

平成16年4月1日～平成16年9月30日



当社への御理解を一層深めていただくために、これまで株主の皆様にお届けしておりました「中間報告書」の内容を充実の上、リニューアルして、「株主のみなさまへ」といたしました。今後は、6月には年度版としての「株主のみなさまへ」をお手もとにお届けし、3月及び9月にはWeb版「株主のみなさまへ」として当社ホームページのIRサイトに掲載いたします。



http://www.mhi.co.jp/index_kabu.html

目次

■ごあいさつ	1
■部門別の概況	4
■トピックス	5
■工場見学会のお知らせ	9
■連結中間決算の概要	10
■単独中間決算の概要	12
■会社の概要	13

●表紙の説明

米国ボーイング社が誇る最新鋭の旅客機B7E7。当社はこの旅客機の共同開発チームの主要メンバーとして参画し機体構造の要である主翼の開発・製造に携っています。



株主の皆様には、平素より格別の御支援、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。「株主のみなさまへ」をお手もとにお届けするに当たりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

当上半期における我が国経済は、中国をはじめとするアジアや米国向けを中心に輸出が好調を持続し、企業収益の改善を反映して設備投資も増加を続けたほか、雇用情勢の改善や猛暑・五輪効果等を背景に個人消費も堅調に推移するなど、引き続き景気回復基調にありました。しかしながら、公共投資は依然として減少を続けるとともに、輸出及び設備投資の伸びも一時よりは低下するなど、景気回復の勢いには一部鈍化も見られました。


このような状況の下、当社はグループを挙げて懸命な受注・販売活動を展開し、その結果当上半期は、船舶・海洋部門でLNG船を多数受注したほか、原動機部門ではメキシコ及び中国向けガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラントを、機械・鉄構部門では海外で新交通システムを成約するなどの成果をみました。また、中量産品部門では、新製品の投入効果や欧州・中国等での需要増加等

により、中小型エンジン、フォークリフト、新聞用オフセット輪転機、工作機械等の受注が増加しております。この結果、当上半期の連結受注高は1兆862億49百万円となりました。原動機部門及び機械・鉄構部門で大型案件の受注が集中した前年同期に対しては、約88%に留まりましたが、依然として高い水準で順調に推移しております。

一方、連結売上高は、航空・宇宙部門が減少したものの、原動機部門で火力発電プラント工事が増加したほか、中量産品



左 西岡会長 右 佃社長



部門、機械・鉄構部門及び船舶・海洋部門も増加したため、前年同期を約13%上回る1兆1,263億60百万円となりました。損益面では、主として日米為替レートが円高で推移したことや鋼材等の値上がりなど損益に対する悪化要因はありましたが、輸出拡大等の努力の成果により売上高が前年同期に比べ増加したことやコスト削減を推進したことなどにより、経常損益は前年同期から28億76百万円改善し65億52百万円の損失となりました。また、特別損失として固定資産の減損会計適用に伴う固定資産減損損失等を計上した結果、中間純損益は215億25百万円の損失となり前年同期より110億59百万円悪化しました。

なお、当上半期の単独業績は、受注高は8,508億35百万円、売上高は9,079億47百万円、営業損失は121億32百万円、経常損失は129億71百万円、中間純損失は173億26百万円となりました。

当年度の中間配当につきましては、当上半期の業績を勘案し、誠に遺憾ながら実施を見送ることとさせていただきます。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、事情御賢察の上、何卒御了承賜りますようお願い申し上げます。

今後の我が国経済は、設備投資及び輸出が当面堅調に推移するものと思われませんが、依然として公共投資及び電力各社の設備投資の減少が見込まれるほか、米国及び中国の経済成長率の低下による世界経済の減速や原油価格の高騰、更には鋼材の需給逼迫・価格上昇による企業収益への悪影響も懸念され、先行きは必ずしも楽観を許さない状況にあります。

このような経営環境の下、当社グループといたしましては、昨年末に策定した2004年事業計画（中期経営計画）の重点施策である製品事業競争力の強化及び企業体質の強化に則り、個々の事業の強化策を強力に推進いたします。一方、鋼材等の原材料費の値上げの影響を吸収すべく、資材費を含めた諸コスト低減に一層注力してまいります。また、技術・営業部門が一体となった製品の企画・提案力の強化や、生産現場にとどまらず、設計・生産技術からアフターサービスに至るまでの、広い意味での「モノづくり力」及び品質・信頼性の更なる向上、CS（顧客満足）活動の徹底への取り組みを加速してまいります。

さらに、企業活動は社会からの信頼があってこそ成り立つものであることを踏ま

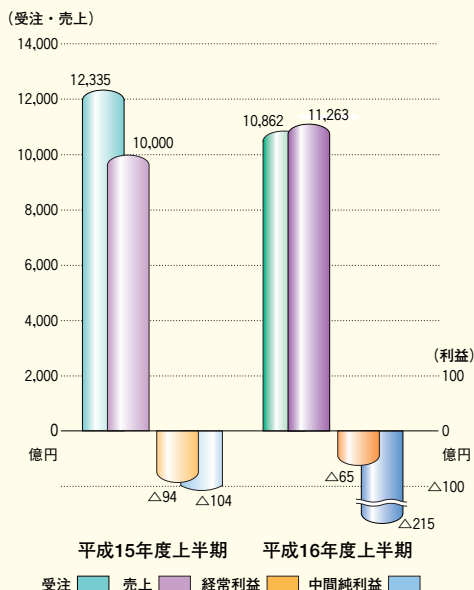
え、当社は、法令遵守はもちろんのこと、環境・労働・人権などに関する普遍的原則を守ることを目的として国連が提唱している「グローバル・コンパクト」への参加を表明いたしました。創業以来、社業を通じて社会の発展に貢献することを理念として活動してまいりましたが、今後とも企業の社会的責任（CSR）をより重視し、経営を進めてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、従来にも増して御支援を賜りますようお願い申し上げます。

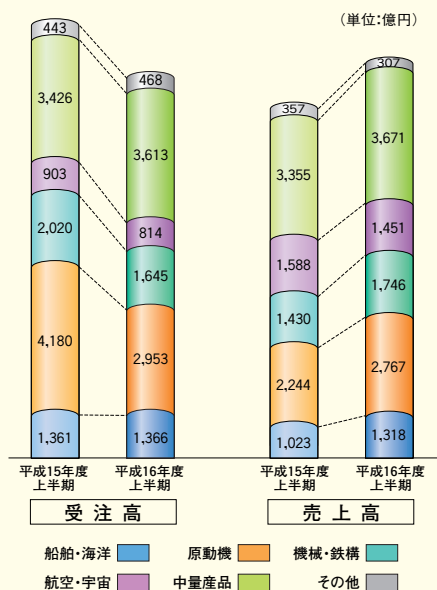
平成16年12月

取締役会長 西岡 喬
 取締役社長 佃 和夫

受注・売上・経常利益・中間純利益（連結）



部門別受注高・売上高（連結）



部門別の概況

船舶・海洋部門

海運市況の活況に伴い新造船需要が引き続き旺盛な中、高付加価値船を中心に受注活動を展開した結果、LNG船、自動車運搬船等を成約することができました。この結果、連結受注高は前年同期並みの1,366億45百万円となりました。

連結売上高は、国内船の増加等により、前年同期を上回る1,318億73百万円となりました。

原動機部門

国内では、原子力及び産業用火力関係の受注が増加し、また海外では、需要が堅調なアジア・欧州をはじめ各地で受注活動を展開した結果、メキシコ及び中国向けガスタービンコンバインドサイクル火力発電プラント等を成約しましたが、部門全体の連結受注高は海外で大型案件の受注が相次いだ前年同期を下回る2,953億94百万円となりました。

連結売上高は、火力発電プラント工事の増加等により、前年同期を上回る2,767億77百万円となりました。

機械・鉄構部門

機械関係は、海外で空港向け新交通システムを受注するなどの成果がありました。廃棄物処理装置が国内で大型案件の受注があった前年同期に比し減少したため、連結受注高は前年同期を下回りました。また、鉄構関係も、橋梁が国内で伸長しましたが、運搬機器が海外で減少したことなどにより、連結受注高は前年同期を下回りました。

以上の結果、部門全体の連結受注高は前年同期を下回る1,645億43百万円となりました。

連結売上高は、台湾新幹線の工事進捗に伴う売上増の影響等により、前年同期を上回る1,746億55百万円となりました。

航空・宇宙部門

民間機関係は、エンジンの点検修理工事が増加しましたが、ヘリコプタ部品、B767民間輸送機（後部胴体等）等が減少したため、前年同期を下回りました。また、防衛関係も、航空機用機体部品等が減少したため、前年同期を下回りました。この結果、部門全体の連結受注高は前年同期を下回る814億1百万円となりました。

連結売上高は、防衛向け哨戒ヘリコプタの引渡機数が減少したことなどにより、前年同期を下回る1,451億22百万円となりました。

中量産品部門

汎用機・特殊車両関係は、国内外での景気回復を背景に需要が拡大している中小型エンジン及びフォークリフトが増加したほか、過給機も堅調であったため、連結受注高は1,493億74百万円、連結売上高は1,663億37百万円となり、それぞれ前年同期を上回りました。

冷熱関係は、欧州向けルームエアコン及びパッケージエアコンが伸長しましたが、国内向けルームエアコンが減少したほか、カーエアコンも国内外で落ち込んだため、連結受注高は前年同期を下回る995億95百万円となりました。連結売上高は、前年同期並みの974億89百万円となりました。

産業機械関係は、中国での旺盛な需要が一巡した押出成形機が減少しましたが、国内で大型案件を受注した新聞用オフセット輪転機が伸長したほか、国内での需要の盛り上がりを背景に工作機械も好調であったため、連結受注高は前年同期を上回る1,124億19百万円となりました。連結売上高は、国内向け印刷機械の増加等により、前年同期を上回る1,033億21百万円となりました。

トピックス

コンテナ船航路を拓いた 新世代橋形クレーン 「タイヤ走行式多目的橋形クレーン」

小樽港では新たなコンテナ船航路の誘致にあたり、埠頭の構造と強度がレール式クレーンの敷設に適しておらず、岸壁自体の大幅な改造を必要とする状況でした。この問題を解決したのは、当社の開発した「タイヤ走行式多目的橋形クレーン」でした。

■埠頭の改造なしにコンテナ船航路の誘致に成功

10列5段積みみのコンテナ船（貨物船では15,000～20,000トンクラス）に対応できる能力を持つ、日本で初めてのタイヤ自走式クレーン。埠頭を改造せずに使用できるという特長を生かして、小樽港に導入されました。既に小樽港ではコンテナ船定期便の誘致に成功しております。

■レール式と変わらない運転性と作業効率を実現

直進走行性を確保し、安全な移動を可能にしたオートステアリングシステムや、クレーンを固定したままコンテナとの位置合わせができるサイドシフトロリ（※）など、当社の独自技術を投入することにより、タイヤ走行式クレーンの問題点を解消しました。

■クレーン稼働のための付帯設備も不要

従来のレール式クレーンでは地上からの給電システムが必要でしたが、今回のタイヤ走行式では地上側給電設備を必要としないエンジン発電駆動式として、埠頭内での移動の自由度を高めました。

※サイドシフトロリ

20フィートコンテナが2列並んでいる場合でも、クレーン本体を走行移動させることなく、この装置のみで荷役が可能。



タイヤ式の導入で設置場所に制約されず、港湾事業の変化に対応した柔軟な使用が可能。

トピックス

児童に合わせて水深を変える 環境にもやさしいプール 「多目的可動床プール」

平成16年4月、ノートルダム学院小学校（京都市）の創立50周年を記念した「50周年記念プール」が完成しました。身長や用途に合わせて水深を調節できる「ワイヤーリール式可動床システム」に、太陽光発電や地熱・雨水利用など、自然の力を利用した当社独自の先端技術を付加しました。安全で使いやすく、環境にも配慮した施設として、高い評価を受けています。

■夏はプール、冬は多目的広場

プール床面に当社独自の「ワイヤーリール式可動床システム」を採用し、プールの深さを児童の身長や利用目的に合わせて、0～1.5mまで調整可能。可動床をプールサイドと同じ高さで固定し、人工芝を敷くことによって、テニスコート約1面分の多目的広場として利用できます。

■太陽光発電システムの設置

屋上に当社製アモルファスシリコン型太陽光発電パネルを102枚設置。発電出力10.2kWの太陽光発電システムでプール内設備の電力の約40%を供給しています。

■地熱利用設備の設置

プール建屋下の地中に採熱管を敷設し、その中に外気を送り込み、地熱により冷却または加熱を行います。採熱管を通った空気は夏は外気より2度低く、冬は2度高く、室内の空調に利用しています。

■再利用水用貯水槽の設置

プール下部の貯水槽は雨水およびプール排水を貯え、校庭への散水とトイレの洗浄水に利用しています。



多目的可動床プールの全景



プールから転換された運動場



太陽光利用

発電を児童に体感してもらうため、日射量、気温、電力量の表示板を設けている。



アモルファスシリコン型太陽光発電パネル

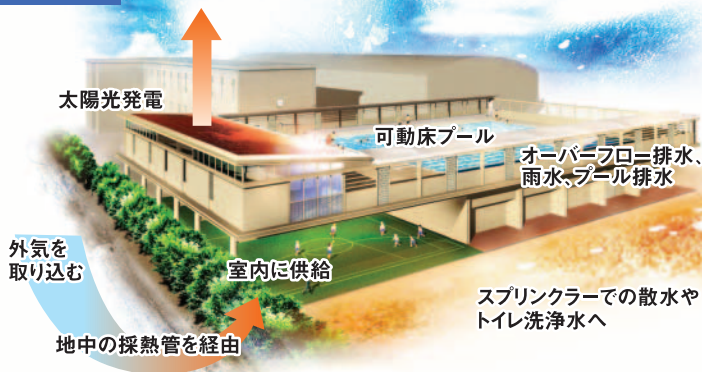
水の有効利用

貯水槽の容量は750トン。試算では年間に2,400トン再利用水を供給できる。これは、全校生徒数の3分の1に当たる320人分のトイレ洗浄水に相当する。



校庭への散水

プール施設内の電力に



可動床プール

水深の調節はボタンひとつで自由に設定でき、床面の昇降速度は毎分0.2mの速さ。

大人（高学年）使用時



子供（低学年）使用時



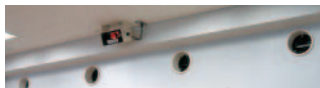
運動場への転換には、半自動式の支持支柱システムを採用。簡便で短時間に転換できる。

プール使用時以外



地熱利用

年間を通じて温度変化が少ない地熱を食堂の空調に利用。



温度表示板と空気の吹き出し口



国連グローバル・コンパクトに参加

当社は、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」への参加を表明し、受理されました。

「グローバル・コンパクト」は、経済活動のグローバル化に伴う諸問題を解決するため、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野に関する10の普遍的原則を支持・実践するよう呼びかけるプログラムです。



アナン事務総長の提唱により2000年7月に国連本部で発足して以降、世界で1,700以上の企業や団体が参加しています。日本では当社が19社目の参加企業となりました。

当社はこれを機に、CSR（企業の社会的責任）を一層重視した経営を推進してまいります。

三菱みなとみらい技術館 開館10周年

三菱みなとみらい技術館は、地域の人々との交流と青少年の科学技術への関心を育むことを目的に、平成6年に開設。以来、85万人の皆様にお越しいただき、今年で開館10周年を迎えました。

これを機に、本年9月に人気の宇宙ゾーンに最新の宇宙ロケット「H-IIA」のエンジンLE-7Aを新たに展示するなど、全面改装してリニューアルオープンいたしました。

ヘリコプターシミュレーションをはじめとした、ゲーム感覚で参加できる体験コーナーも各種あり、子供から大人まで楽しめる施設となっております。



開館10周年記念式典



宇宙ゾーン (イラスト)

電話番号：045-224-9031

ホームページ：<http://www.mhi.co.jp/museum/>

工場見学会のお知らせ

株主の皆様にご当社を更によく知っていただくため、工場見学会を開催することにいたしましたので、多くの皆様の御参加をお待ちしております。

見学会概要

- ・ **見学場所** 横浜製作所（神奈川県横浜市）
当製作所は、ごみ焼却炉などの環境装置、橋梁の製造、船の修繕などを手がけております。また、埋め立て廃棄物をゼロにする「ゼロエミッション」を実現しております。
- ・ **実施日時** 平成17年3月18日（金）13:00～17:30
- ・ **対象者** 当社株主の方（同伴者1名様まで可）
- ・ **集合場所** JR横浜駅（予定）
- ・ **参加費** 無料（ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自の御負担とさせていただきます。）



横浜製作所

応募要領

- ・ **応募方法** 右記のとおり官製はがきに必要事項を御記入の上、御応募ください。
- ・ **締切日** 平成16年12月31日（金）（当日消印有効）
- ・ **募集人数** 80名様（同伴者を含む）
お申し込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。**厳正な抽選の上、当選発表につきましてもは当選者への御連絡をもって代えさせていただきます。**

お問い合わせ先

三菱重工業（株） 総務部 文書・管財課
電話番号：03-6716-3111（大代表）
8:45～17:30（土・日、祝祭日を除く）

官製はがき

50円切手

1088215

三菱重工業（株） 総務部
文書・管財課

東京都港区港南
二丁目16番5号

宛名面

- 郵便番号
- 御住所
- 電話番号
- お名前
(ふりがなを御記入ください。)
- 性別
- 年齢
- 同伴者のお名前、性別、年齢
(お一人で御参加の場合は不要です。)

裏面

連結中間決算の概要

中間連結貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成16年度 中間期末	平成15年度末	負債、少数株主持分 及び資本の部	平成16年度 中間期末	平成15年度末
	(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)		(平成16年9月30日現在)	(平成16年3月31日現在)
流動資産	24,757	24,029	流動負債	16,008	15,194
現金預金	2,343	2,098	買入債務	5,848	6,309
売上債権	8,103	9,953	短期借入金	4,266	4,029
有価証券	1,354	17	前受金	4,005	3,273
たな卸資産	10,577	9,759	その他流動負債	1,888	1,582
その他流動資産	2,379	2,201	固定負債	8,868	8,571
固定資産	12,897	13,123	長期借入金	5,321	4,510
有形固定資産	7,345	7,432	その他固定負債	3,547	4,060
無形固定資産	339	337	負債合計	24,877	23,766
投資その他の資産	5,212	5,354	少数株主持分	149	142
投資有価証券	4,550	4,625	資本金	2,656	2,656
その他	661	728	資本剰余金	2,038	2,038
資産合計	37,655	37,153	利益剰余金	7,156	7,478
			その他有価証券評価差額金	869	1,142
			為替換算調整勘定	△56	△57
			自己株式	△35	△13
			資本合計	12,628	13,244
			負債、少数株主持分及び資本合計	37,655	37,153

(平成16年度中間期末) (平成15年度末)

(注) 有形固定資産の減価償却累計額 14,690億円 14,501億円

資産合計

平成16年度中間期末の資産合計が平成15年度末に比べて増加したのは、主として有価証券及びたな卸資産の増加によるものです。

負債合計

平成16年度中間期末の負債合計が平成15年度末に比べて増加したのは、主として借入金及び前受金の増加によるものです。

資本合計

平成16年度中間期末の資本合計が平成15年度末に比べて減少したのは、主として利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の減少によるものです。

中間連結損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成16年度 中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	平成15年度 中間期 (平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
売上高	11,263	10,000
営業費用	11,304	9,895
営業利益 (△は損失)	△40	105
営業外収益	116	110
営業外費用	140	309
● 経常利益 (△は損失)	△65	△94
特別利益	19	—
特別損失	207	20
税引前中間純利益 (△は損失)	△253	△114
法人税等	△41	△18
少数株主利益	3	8
● 中間純利益 (△は損失)	△215	△104

(平成16年度中間期) (平成15年度中間期)

(注) 1株当たり中間純利益
(△は損失)

△6円40銭

△3円10銭

経常利益

平成16年度中間期の経常損失が平成15年度中間期に比べて改善したのは、為替レートが円高で推移したことや鋼材等の値上がりなどに対し、輸出拡大等の努力により売上高が増加したことやコスト削減を推進したことなどによるものです。

中間純利益

平成16年度中間期の純損失が平成15年度中間期に比べて悪化したのは、主として特別損失が増加したことによるものです。

中間連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：億円)

	平成16年度 中間期 (平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	平成15年度 中間期 (平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
●営業活動によるキャッシュ・フロー	1,506	949
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△845	△413
●財務活動によるキャッシュ・フロー	916	△441
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	△1
現金及び現金同等物の増減額	1,582	93
現金及び現金同等物の期首残高	1,847	1,904
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	5	30
現金及び現金同等物の期末残高	3,435	2,028

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収入の増加等により平成15年度中間期比557億円増加の1,506億円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、三菱自動車工業(株)の優先株式購入等により、平成15年度中間期比432億円支出が増加し、△845億円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、将来の資金需要に対応するために借入金を増加したことにより、平成15年度中間期比1,358億円収入が増加し、916億円となりました。

単独中間決算の概要

中間貸借対照表の要旨

(単位：億円)

資産の部	平成16年度	平成15年度末	負債及び資本の部	平成16年度	平成15年度末
	中間期末	(平成16年3月31日現在)		中間期末	(平成16年3月31日現在)
	(平成16年9月30日現在)			(平成16年9月30日現在)	
流動資産	21,264	20,535	流動負債	13,204	12,406
現金預金	1,600	1,209	買入債務	5,308	5,778
売上債権	7,003	8,835	短期借入金	2,828	2,486
たな卸資産	9,104	8,456	前受金	3,755	3,113
繰延税金資産	500	453	その他流動負債	1,312	1,029
その他流動資産	3,056	1,580	固定負債	7,658	7,329
固定資産	10,706	10,863	社債	2,100	2,400
有形固定資産	5,685	5,730	長期借入金	4,762	3,919
建物	2,080	2,095	繰延税金負債	—	204
その他有形固定資産	3,605	3,634	その他固定負債	795	805
無形固定資産	197	193	負債合計	20,862	19,736
投資その他の資産	4,822	4,939	資本金	2,656	2,656
投資有価証券	4,321	4,379	資本剰余金	2,035	2,035
繰延税金資産	18	—	利益剰余金	5,604	5,878
その他投資等	481	560	株式等評価差額金	847	1,105
資産合計	31,971	31,399	自己株式	△35	△13
	(平成16年度中間期末)	(平成15年度末)	資本合計	11,108	11,662
(注) 有形固定資産の減価償却累計額	12,608億円	12,448億円	負債及び資本合計	31,971	31,399

中間損益計算書の要旨

(単位：億円)

	平成16年度	平成15年度
	中間期	中間期
	(平成16年4月1日から 平成16年9月30日まで)	(平成15年4月1日から 平成15年9月30日まで)
売上高	9,079	7,873
営業費用	9,200	7,960
営業利益 (△は損失)	△121	△87
営業外収益	93	112
営業外費用	101	263
経常利益 (△は損失)	△129	△238
特別利益	25	—
特別損失	150	20
税引前中間純利益 (△は損失)	△255	△259
法人税、住民税及び事業税	△4	1
法人税等調整額	△77	△91
中間純利益 (△は損失)	△173	△168
前年度繰越利益	373	597
中間未処分利益	200	429

(注) 1株当たり中間純利益 (△は損失)
 (平成16年度中間期) △5円15銭 (平成15年度中間期) △5円0銭

会社の概要

概要

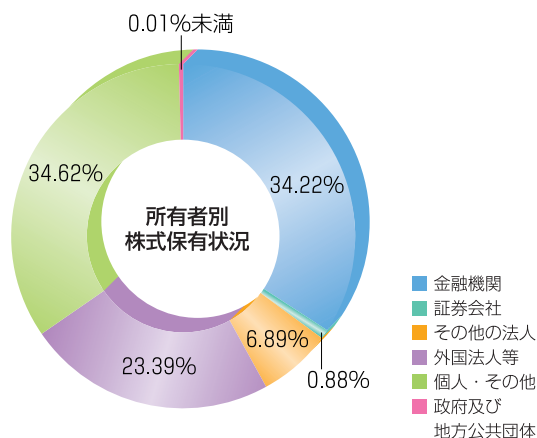
社名 三菱重工業株式会社
本社 東京都港区港南二丁目16番5号
〒108-8215 ☎03-6716-3111
創立 明治17年7月7日
設立 昭和25年1月11日

資本金 265,608百万円
(平成16年9月30日現在)
従業員数 34,096名
(同上)
ホームページ <http://www.mhi.co.jp>

株式の状況

(平成16年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数 6,000,000,000株
発行済株式総数 3,373,647,813株
株主数 331,499名



役員

(平成16年9月30日現在)

取締役会長	西岡 喬	取締役	内田 進
取締役社長	佃 和夫	取締役	戸田信雄
常務取締役	前沢 淳一	取締役	菅 宏
常務取締役	柘植 綾夫	取締役	春日井 靨
常務取締役	榎田 元生	取締役	中原 豊
常務取締役	太田 一紀	取締役	青木素直
常務取締役	松浦重治	取締役	谷口勲嗣
常務取締役	永田育郎	取締役	吉田雄彦
常務取締役	若園 修	取締役	松岡利行
常務取締役	浦谷良美	取締役	宮首昭彦
常務取締役	高岡 力	取締役	山田陽二
取締役	佐々木幹夫		
取締役	江川豪雄		
取締役	大宮英明	監査役	岸 暁
取締役	木山信雄	監査役	中野豊士
取締役	福江 一郎	監査役(常勤)	富田敏徳
取締役	富川史雄	監査役(常勤)	稲熊豊彦

株主メモ

■決算期…… 3月31日

■定時株主総会

開催期…… 6月下旬

■基準日……定時株主総会議決権行使株主確定日

3月31日

利益配当金支払株主確定日

3月31日

中間配当金支払株主確定日

9月30日

その他の基準日

上記のほか必要ある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定

■公告掲載新聞…… 日本経済新聞

なお、貸借対照表及び損益計算書につきましては、上記公告掲載新聞に掲載する決算公告に代えて、次のウェブサイトにおいて公示しております。

http://www.mhi.co.jp/index_kabu/bspl.html

■1単元の株式数…… 1,000株

■名義書換代理人…… 三菱信託銀行株式会社

■名義書換取扱場所…… 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(連絡先)

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

■名義書換取次所…… 三菱信託銀行株式会社 全国各支店

株式についての各種手続き

名義書換、住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求*及び相続の各種お手続きは、上記名義書換取扱場所及び名義書換取次所において取り扱っております。

なお、各種お手続きに必要な用紙については、以下の電話番号からも御請求いただけます。

専用のフリーダイヤル **0120-86-4490** (24時間・音声自動応答)

*単元未満株式の買増請求は、9月12日から9月30日までの間、及び3月14日から3月31日までの間は、お取扱いができませんので、御留意ください。

アンケート御協力のお願い

当社では、株主の皆様の声を今後の様々な活動に反映していきたいと考え、アンケートを実施させていただくことといたしました。大変お手数ではございますが、同封のアンケートはがきにお差し支えない範囲で御記入の上、平成16年12月31日までに御回答いただきますようお願いいたします。

※御回答はファクシミリでもお受けいたします。 FAX：03-6716-5800



R100

100%再生紙使用



大豆油インキ使用